

(4) 生産環境

農村の概況

本市は、信濃川左右岸に沿った平野部では広大な農地が展開し、西山丘陵と東山丘陵に散在する農地は谷津田を形成している。東山丘陵の高位部となる山古志・栃尾地域の山間地では急傾斜の棚田がみられる。整備がほぼ完了している平野部に対して、これらの谷津田・棚田では整備が後れており、生産条件の格差は大きい。農地の立地条件は多様であるが、平成17年度において農地面積の91.7%が水田で、農業産出額(粗生産額)の80.6%が米となっており、水稻に依存する水稻単作経営の農家は多い。販売農家のうち2ha未満の小規模農家が74.1%を占めており、年齢別農業就業人口では65.7%が65歳以上と高齢化が進んでいる。

農業経営については、高齢化によって労働力の弱体化が進む中で、担い手の育成・確保と農地集積率の向上が課題となっている。一方で、環境保全や安全安心な農産物に対する意識の高まりから、農業体験、直売所の開設、棚田オーナー制度や農家民宿開業等、様々な取組が盛んになってきている。また環境保全型農業の一環として、5割減減栽培も進められている。本市における近年の実績は以下のとおりである。

年度	水稻作付面積	5割減減栽培	取組面積割合	市内農家数	取組農家数	取組農家割合
H18	12,178.58ha	2,026.53ha	16.64%	14,363戸	1,619戸	11.27%
H19	12,234.19ha	3,056.47ha	24.98%	13,089戸	1,838戸	14.04%

農業農村の構造と変遷

a. 農家戸数と農家人口

総農家数、農家人口ともに減少傾向である。平成2年から17年にかけての変化でみると、総農家数は33.1%、農家人口においては39.9%減少した。

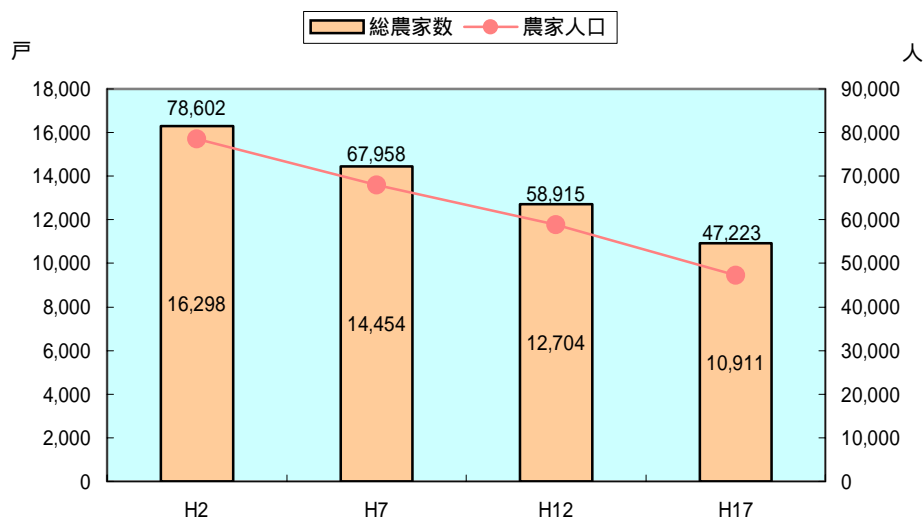


図 2.26 総農家数・農家人口の推移

資料：農林業センサス

b. 農業形態

販売農家数は年々減少しているが、なかでも第2種兼業農家(農業収入が全収入の50%以下)の減少数が大きく、平成2年から17年にかけて46.0%減少した。一方で専業農家は増加しており、その要因として兼業農家から専業農家への誘導がうまく進んでいることと定年退職後の就農が挙げられる。

新潟県全体では平成2年から17年にかけて第2種兼業農家は37.4%減少している。一方で専業農家は増加しており、本市と同様な傾向となっている。

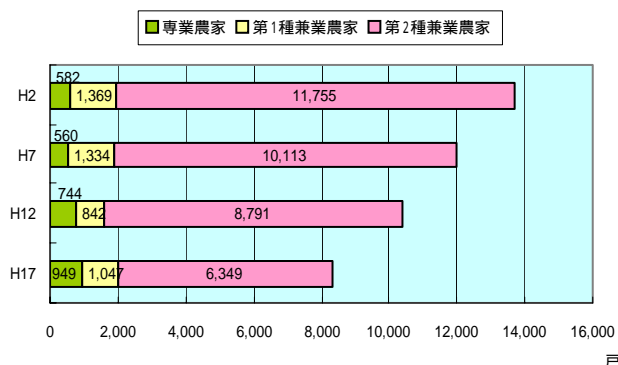


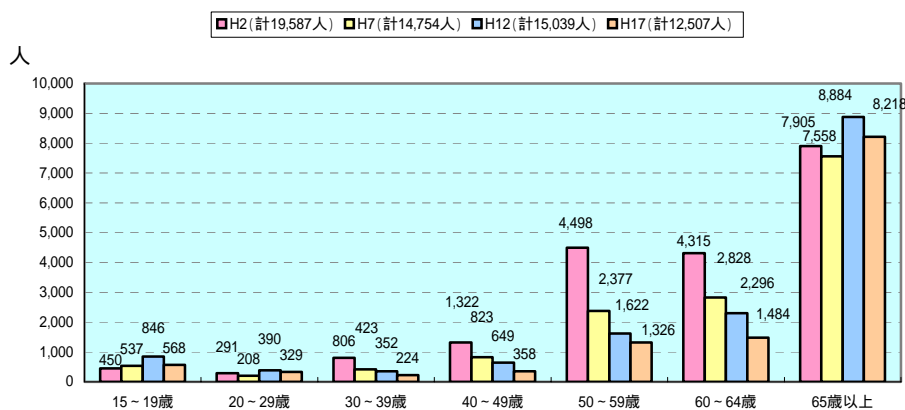
図 2.27 長岡市 専兼業別農家数(販売農家)の推移

資料：農林業センサス

c. 年齢別就農者人口

比較的農業就業人口の多い50歳代、60～64歳の層は平成2～17年にかけてそれぞれ70.5%、65.6%減少した。また50歳未満の各層においては農業就業人口の分布数が少なく、急速な高齢化の中、後継者不足が懸念される。一方、60歳以上の層には団塊世代の退職による就農といった新たな担い手が含まれている。

新潟県全体では平成2～17年にかけて50代が61.4%、60～64歳の層は58.2%減少している。年齢毎の分布割合と変化の傾向は本市と同様である。



H2の数値：1990年農林業センサスより、総農家を対象とした数値及び16～19歳の数値を使用。

図 2.28 長岡市 年齢別農業就業人口(販売農家)の推移

資料：農林業センサス

d. 経営耕地面積規模別農家数

3ha 未満の農家は減少しており、特に 0.5～1.0ha 層での減少数が多い。3～5ha 未満の農家は微増傾向であり、5ha 以上の農家は増加している。

新潟県全体でも同様な分布と変化となっている。

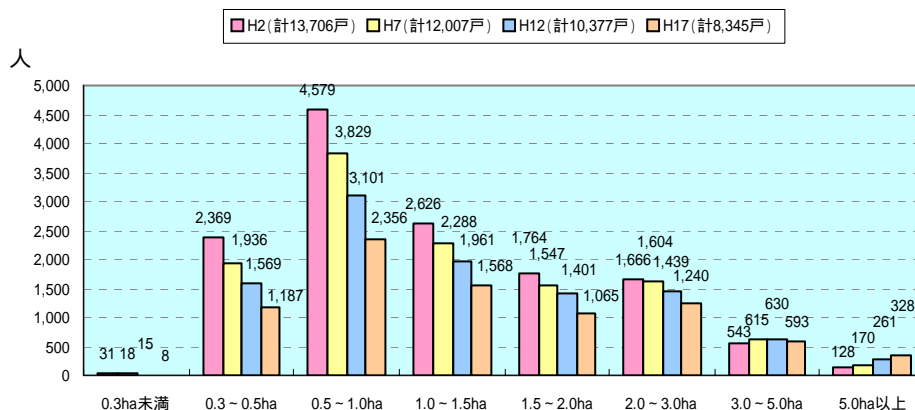


図 2.29 長岡市 経営耕地面積規模別農家数（販売農家）の推移

資料：農林業センサス

e. 耕作放棄地

経営耕地面積が年々減少しており、耕作放棄地は増加傾向にある。耕作放棄率は平成 17 年で 7.2% となっており、県全体の 5.9% と比べて高い。耕作放棄地の増加の理由は、中山間地域における農家の高齢化による営農活動の停滞に加え、生産条件不利で作業委託もできない農地が増えていること等が考えられる。また、経営耕地面積減少の原因として、長岡地域の千秋が原・古正寺地区の商業地、中之島地域の工業団地・住宅団地の造成等が挙げられる。

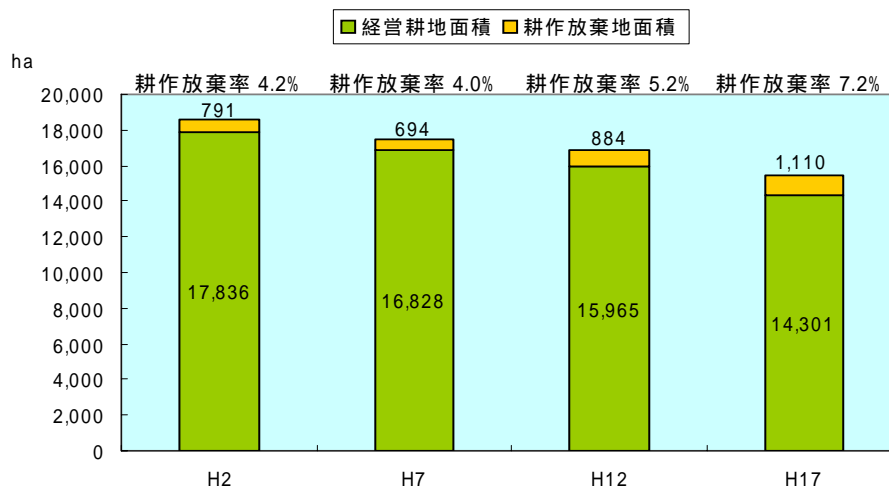


図 2.30 長岡市 耕作放棄地（総農家）の推移

資料：農林業センサス

農業生産

a. 農業産出額

農業産出額（農業粗生産額）は、平成7年から17年にかけて84億円、比率で26.2%減少した。その中で、米の農業産出額の減少が大きく84億円のうち64億円が米である。

平成17年において、米が占める割合は80.6%である。一方、県全体では米の占める割合は62.6%となっており、本市は水稲への依存が強いことがうかがえる。

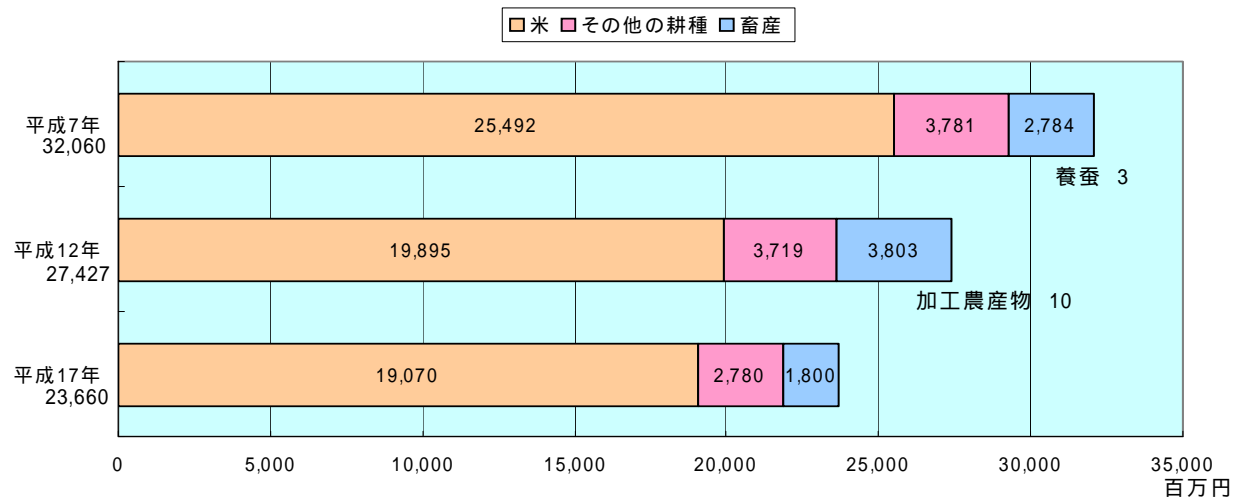


図 2.31 長岡市 農業産出額の推移

資料：長岡市市勢要覧 2007

b. 主要農産物の動向

ア. 作付面積の多い作物

主な農作物の作付面積と収穫量は表 2.20 の通りである。作付面積、収穫量ともに水稲が最も多い。作付面積は全体的に減少傾向にある。

表 2.20 主な農作物の作付面積と収穫量

年度	水稲		大豆		そば		だいこん		ばれいしょ	
	作付面積	収穫量	作付面積	収穫量	作付面積	収穫量	作付面積	収穫量	作付面積	収穫量
H13	12,457	70,860	1,265	2,957	-	-	173	3,896	102	2,094
H14	12,301	63,690	1,312	3,189	-	-	168	2,890	94	1,787
H15	12,656	62,685	1,465	2,875	323	52	160	3,506	95	1,720
H16	12,531	67,010	1,223	1,230	177	42	153	3,254	94	1,732
H17	12,500	67,100	1,030	2,000	101	31	151	3,250	90	1,620

年度	さといも		キャベツ		ねぎ		きゅうり		えだまめ	
	作付面積	収穫量	作付面積	収穫量	作付面積	収穫量	作付面積	収穫量	作付面積	収穫量
H13	101	745	62	1,453	82	1,506	53	1,028	95	392
H14	100	689	59	1,217	83	1,413	55	961	88	369
H15	98	921	58	1,249	81	1,325	54	873	95	379
H16	93	783	54	1,021	82	1,267	54	875	103	281
H17	93	809	55	1,170	81	1,360	51	946	102	384

水稲のみH14～H18のデータを使用

資料：新潟農林水産統計年報

イ.各地域の農産物特産品

各地域で作られている主な特産品は下記の通り多数あるが、栽培量が少なく産地化しているものは少ない。

長岡地域・・・巾着なす、梨なす、おもいのほか(食用菊)、かぐらなんばん、ずいき、
肴豆、体菜、ゆうごう(夕顔)、さといも、糸うり、長岡菜、白雪こかぶ、
だるまれんこん

中之島地域・・・大口れんこん、やわ肌ねぎ、にら、きのこ、さといも

越路地域・・・アスパラ、そば、はなびら苜

三島地域・・・そば

山古志地域・・・かぐらなんばん、ヤーコン(キク科の根菜類)、錦鯉

小国地域・・・ぎんなん、八石なす、いとうり、かぐらなんばん、にら、ねぎ、山野草

和島地域・・・てまりかぼちゃ、自然薯、そば、かきのもと、梨なす

寺泊地域・・・花卉(ストック、ひまわり)、しいたけ、やわ肌ねぎ、巨峰、
プリンスメロン、タカミメロン、いちぢく、梨、いちご

栃尾地域・・・アスパラ、山菜類、アスパラ菜、長岡菜、新潟地鶏

与板地域・・・花卉、アスパラ菜、たけのこ、てまりかぼちゃ、えだまめ、
ブロッコリー、さといも、ぎんなん、馬鈴薯



巾着なす



かぐらなんばん



れんこん



さといも

販売・観光・体験等の施設、活動の概況

a.販売・観光・体験等施設

本市には、消費者と農村を結びつけるものとして、農業体験施設、農家民宿、農産物直売所、産地直送便等がある。

近年盛んになってきている農業体験については、ながおかグリーン・ツーリズム推進協議会が窓口機能を有し、各地域における農業体験などの情報提供を行っており、その内容は田植えや稲刈り、特産品の収穫が主である。山古志・小国地域では農家民宿に宿泊する滞在型のものもあって、山菜採りをはじめとして地域の特色ある農業体験が可能である。

小国地域ではグリーン・ツーリズムを「へんなか(囲炉裏)ツーリズム」と称し、また棚田オーナー制度なども行われている。



長岡地域 農の駅 あぐらって長岡



与板地域 小学生の農業体験授業



山古志地域 直売所の様子



中之島地域 大口れんこん収穫体験

b. 活動の概況

農村集落では都市部に比べて過疎・高齢化が進行しており、地域の活力が失われつつある。このような状況にあって地域活性化のために活動する地域住民主体のグループがいくつか見られる。

【蓮花寺集落】

三島地域にあり、「伝統ある蓮花寺神楽舞を、将来にわたり保存・伝承する」を目的に、蓮花寺神楽舞保存会が活動を推進している。地域の親子から気軽に参加してもらい、経験者、指導者による技術習得指導会を行っている。平成17年度には長岡市の地域コミュニティ事業補助金を受けデジタルアーカイブ化及び発表会を開催した。古き良さと新しき良さのバランスを保ちながら「神楽舞」という地域の宝物をひとつのきっかけとして、地域みんなが集まり、そして楽しみながらまとまっていける地域づくりを実践している。



【よしたー山古志】

中越地震以前から地域おこしの活動をしていたグループが中心となり、地震で大きな被害にあった後に山古志住民有志が設立したNPO法人である。「よしたー」とは闘牛の勢子が牛にかける言葉で「よくやった」などの意味がある。

昔ながらの習俗が残る「文化のふきだまり」としての山古志の魅力を全国に発信し、再生と復興に向けて活動している。

各種地域おこし勉強会、山菜まつり、きのこ祭り等の収穫イベントや歌声コンサート等を開催しているほか、震災体験文集の出版、健康野菜ヤーコンの栽培から販売促進のための「全国ヤーコンサミットIN山古志」の開催、オリジナルTシャツの製作・販売まで幅広く手がけている。

山古志米のブランド化、農業振興支援、観光ガイドや農業体験を通じた都市住民との交流なども計画している。

【夢しお 21】

栃尾地域の上塩地区にあるグループで、六つの部会がある。「過疎と高齢化が進み、活気が失われた農村を活性化する方策はないか。地区のために何かできないか」と話し合ったのが始まりである。部会毎の活動を通して、地域住民の要望を取り上げて検討し、実行している。具体的な活動内容は、集落内の公園の整備、地域特産品のちまきや笹団子、竹細工の製造・販売など様々である。

2000年度にはふるさとづくり振興奨励賞、県異業種交流の地域活性化大賞、2005年度には農山漁村いきいきシニア活動で優秀賞を受賞した。



【田舎の親類村】

栃尾地域の菅畑地区にある。農業や昔ながらの伝統文化に地域住民が関わることが集落形成の上で重要であるという認識から、住民総意で地域づくりを実行してきた。地域の「和と絆」をキーワードに、農家だけでなく非農家も含めた集落の老若男女が活動に参加しており、その活動内容は、集落営農の取組や住民参加の農業施設の維持管理、神楽舞等の伝統行事・郷土食の継承・保存、農業体験、ホームステイの受け入れなど多岐にわたっている。

平成 19 年度には第 3 回美の里づくりコンクールで 2 位にあたる農村振興局長賞を受賞した。



【森光集落】

小国地域にあり、「農業の衰退がふるさとの衰退につながる」という危機感から、集落住民が主体となって「森光担い手生産組合」が設立され、平成10年に法人化した。現在、生産組合、老人会、婦人会、子ども会などが世代を超えて連携し、地域づくりに取り組んでいる。活動内容は新潟大学農学部との協力を得て開発した地域ブランド米「もりひかり」などの販売、漬物づくり、都市住民の農業体験の受け入れ等、コメだけに頼らない多角的な活動を行っている。

平成19年度の豊かなむらづくり表彰で農林水産大臣賞を受賞した。



【求草集落】

寺泊地域にあり、集落には希少生物が多く生息しており、近年は大量のホタルの発生が見られ、この自然を次の世代に伝え、保護していくため集落全員参加の「求草ホタルの会」を結成し、集落内の環境向上活動を行っている。

主な活動は国土交通省「ボランティアサポートプログラム」を活用し、集落入口の国道に花の植栽活動を行っている。



【長岡地域(全域)】

長岡市内の中山間地域では、中山間地域農業の活性化や集落営農機能の維持管理を目的として、81の集落が協定を結び「中山間地域直接支払い制度」に取り組んでいる。また、この制度の対象とならない農村集落においては、小学校区単位で、地域の農業者や住民等も含めた多様な主体の参加による活動組織を立ち上げている。現在、54の活動組織があり、地域における農地・水・環境の良好な保全と質的向上を一体的かつ総合的に図るため、「農地・水・環境保全向上対策」に取り組んでいる。

農業農村整備の概況

本市の基盤整備状況は下図の通りである。概ね 30a 以上の田を整備済とみなした場合、市全域のほ場整備率は 46.4%（平成 18 年度末 長岡地域振興局資料より）である。なお、新潟県全体のほ場整備率は 55.3%となっている。

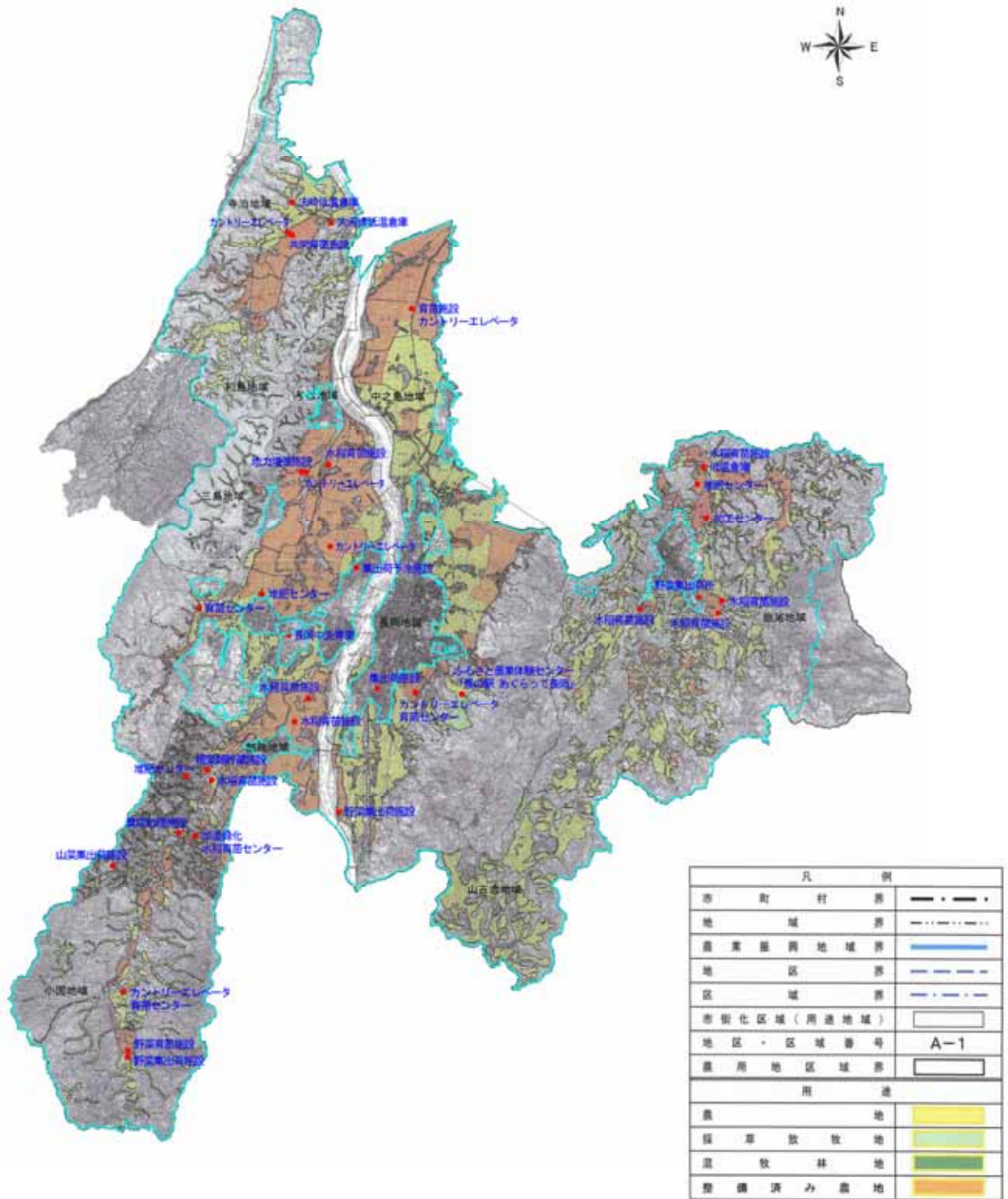


図 2.32 基盤整備状況図

※ 整備済農地の着色は、平成19年度のものである。

生産環境資源マップ

生産環境について今まで述べてきた内容と、各地域の代表的な要素を任意に抽出して、それらの分布を以下のマップに示す。

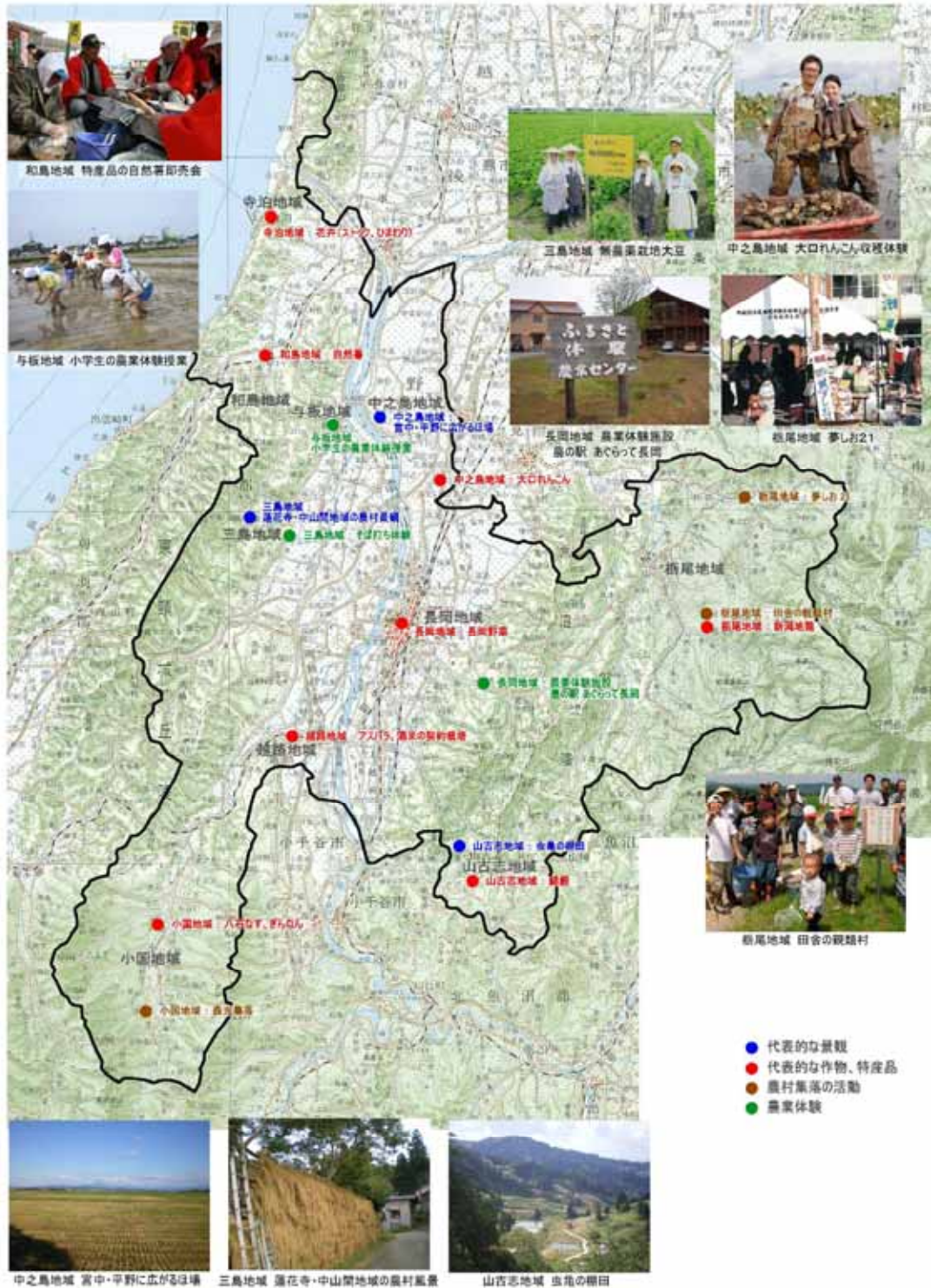


図 2.33 生産環境資源マップ